

マーケット概況（2023年11月）

11月の債券相場は、前月末の金融政策決定会合での政策修正を受けて、10年372回債の利回りが2013年5月23日以来となる0.970%まで上昇するなど、軟調に始まった。1日の後場に、3-5年1,000億円、5-10年3,000億円の臨時の国債買入オペがオファーされると、日銀の長期金利抑制スタンスが確認されたとの見方から債券相場は下げ止まった。その後、米国FOMCで2会合連続となる金利据え置きが決定され、2日の10年債入札を順調に通過すると、債券相場は上昇に転じた。ムーディーズが米国の信用格付け見通しを「ネガティブ」へと引き下げたことなどから一時上値が重くなる場面があったものの、10月米国CPIの予想外の伸び鈍化を受けてFRBによる利上げ停止観測が強まったことや、7-9月期国内GDPの弱い結果を受け、債券相場は上げ幅を拡大した。その後、22日に5-10年、25年超の国債買入オペが減額され、更に28日の40年債入札が低調な結果となると、40年債を中心に伸び悩んだ。しかし、米国においてタカ派と見られていたウォラーFRB理事が利下げに言及したことを契機に早期利下げ観測が浮上すると、30日には10年372回債の利回りは9月8日以来となる0.635%まで急低下した。その後、利益確定売りから上値が重くなり最終的に10年372回債は0.660%で今月の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、品薄感から徐々に金利低下の流れとなり、月前半は-0.19%台～-0.22%台で推移した。17日の3M1196回債入札では、積極的な玉確保姿勢が先行し最高落札利回りは-0.2214%と想定よりも強い結果となり、セカンダリーでは-0.270%まで低下し取引された。24日の3M1197回債入札では、投資家需要が一服し最高落札利回りは-0.2047%に上昇し、セカンダリーでは-0.165%売りの気配で終えた。6M1193回債入札は、前月とほぼ同水準の最高落札利回り-0.1502%と好調な結果となり、入札後は-0.163%で取引された。1Y金利は、月中旬にかけて投資家の買いが入り一時-0.060%まで金利低下した。1Y1195回債入札は投資家需要が根強く、最高落札利回り-0.0378%と前月よりも好調な結果となり、セカンダリーでは-0.065%で取引されて終えた。

<一般債市場>

11月の定例地方債は、10年債・5年債のスプレッドはいずれも前月から横ばいの国債カーブ対比+9.0bp、+10.0bpで条件決定された。10月末の日銀会合でのYCC再柔軟化を受けて金利先高観への警戒から10年債は消化にやや時間が掛かった一方、5年債は金利水準や短期化ニーズから順調に消化された。既発債はスプレッドのワイドニング傾向は一服したものの需給の緩い状況は継続している。SDGs債関連では、共同発行債として初の10年グリーンボンドを起債したほか、秋田県も初の5年グリーンボンドを起債した。社債発行額は9,867億円と前月から大幅に減少したが、単月では1998年に次ぐ高水準の発行となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#372	0.935(1日)	0.635(30日)	0.970(1日)	0.660(30日)
#371	0.935(1日)	0.630(30日)	0.965(1日)	0.660(30日)
#361	0.685(1日)	0.440(30日)	0.725(1日)	0.440(30日)
#162-#163(5Y)	0.460(1日)	0.235(30日)	0.485(1日)	0.255(30日)
#186(20Y)	1.720(1日)	1.370(30日)	1.745(1日)	1.430(30日)
#1186-#1193 TDB(6M)	-0.161(9日)	-0.163(9日)	-0.161(9日)	-0.163(9日)
#1191-#1197 TDB(3M)	-0.195(2日)	-0.270(22日)	-0.190(2日)	-0.250(24日)